

とうきょう

2023.8.18

No.1

会報



(写真) 第102回研究会 集合写真

【もくじ】

- ・ 令和5年度若手研究助成事業 (2)
- ・ 第102回研究会開催報告 (3)
- ・ 令和4年度第2回常任理事・理事会議事録 (5)
- ・ 令和4年度総会議事録 (8)
- ・ 令和5年度事業計画 (10)
- ・ 令和5年度予算案 (11)

令和5年度 若手研究助成事業

本学会では、体育・スポーツ・健康に関する科学的研究を促進し、東京体育学研究のさらなる促進および若手研究者の育成を主旨として、39歳以下の若手研究者を対象とした研究助成を行っている。厳正なる審査の結果、以下の3名への助成が決定した。

令和5年度若手研究助成 採択者

氏名	所属	テーマ
齋藤 未花	日本体育大学大学院	遺伝特性はレジスタンス運動後の筋損傷を予測できるか？— 遺伝情報を活用したトレーニングプロトコル提案に向けたパイロット研究—
戸枝 美咲	日本女子大学家政学部 被服学科	運動物体の予測における男女特性の検討
藤戸 靖則	国士舘大学大学院	間欠的高強度運動中におけるパワー発揮, 酸素摂取量および心拍数の応答およびレスリング競技成績との関係

第102回研究会（SPMワークショップ）開催報告

「生体力学における統計パラメトリックマッピング（SPM） の活用と将来展望」

令和5年7月27日（木）に第102回研究会をハイブリッド形式で開催した。

「生体力学における統計パラメトリックマッピング（SPM）の活用と将来展望」のテーマのもと、Mark Robinson氏、Jos Vanrenterghem氏、Todd Pataky氏の3名に御講演いただいた。

本研究会は「日本SPMワークショップツアー」の初日として開催された。

本研究会は、統計パラメトリックマッピング（SPM）の概念、統計手法、これまでの検定方法との違いについてパネルディスカッション形式で行われた。有意差を検定できるSPMを広く日本の研究者に伝えるという趣旨で行われ、生理学、バイオメカニクス等の生体力学データへの応用について、考える機会となった。本研究会への参加者は対面・オンライン参加を合わせて約60名であった。



東京体育学会第102回研究会 （SPMワークショップ）

テーマ：生体力学における統計パラメトリックマッピング（SPM）の活用と将来展望

日時：7月27日（木）17:00～19:00

場所：国土館大学大学世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎 34号館A207教室

開催形式：ハイブリット開催（対面+Zoomによるオンライン）

発表者：Mark Robinson氏（Liverpool John Moores University、写真中央）

Jos Vanrenterghem氏（KU Leuven、写真左）

Todd Pataky氏（京都大学、写真右）

※上記の講師によるパネルディスカッション

概要：

SPM は、時空間連続的データを一連のものとして分析する解析手法である。

元来、fMRI と PET 画像の分析のために1990年代初頭に神経画像診断分野で開発され、それ以降、天文学、コンピュータビジョン学、生理学、バイオメカニクス等、多くの領域にて活用されてきた。本研究会では、生体力学データに着目するが、この解析手法は様々な分野のデータに応用できる。

SPM は数学的に複雑にもかかわらず、t 検定・回帰分析・ANOVA などの基礎的な統計手法に概念的に類似している。本ワークショップでは、(1) SPM の歴史、(2) SPM での t 検定の実施方法、(3) SPM の妥当性の根拠、(4) SPM の限界及び将来展望について、SPM 文献から重要なトピックを確認する。

トピック毎に10分～15分の発表とパネルディスカッションのセット形式で開催する。パネルディスカッションでは、講師による個人的な経験、意見と視点を自由に議論する。

東京体育学会第102回研究会 [SPMワークショップ]

生体力学における 統計パラメトリック マッピング SPM の 活用と将来展望

7月27日 木
17:00～19:00

場 所
国士舘大学
世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎
34号館A207教室

開催形式
ハイブリッド開催
(対面+Zoomによるオンライン)
※非会員の方は事務局までご連絡ください。

講 師
Dr. Mark Robinson氏
Dr. Jos Vanrenterghem氏
Todd Pataky氏

主催 東京体育学会 (会長:船渡和男、理事長:田中重陽)

概要
SPMは、時空間連続的データを一連のものとして分析する解析手法である。
元来、fMRIとPET画像の分析のために1990年代初頭に神経画像診断分野で開発され、それ以降、天文学、コンピュータビジョン学、生理学、バイオメカニクス等、多くの領域にて活用されてきた。
本研究会では、生体力学データに着目するが、この解析手法は様々な分野のデータに応用できる。

「日本SPMワークショップツアー」は7月27日に東京で始まり、28日と29日には名古屋と京都で同様のSPMワークショップを開催する。
講師のリヴァプール・ジョン・ムーア大学のMark Robinson先生、ルーヴァン・カトリック大学のJos Vanrenterghem先生、京都大学のTodd Patakyは主にバイオメカニクスデータにSPM法を応用した多くの論文を発表している。

SPMは数学的に複雑にもかかわらず、t検定・回帰分析・ANOVAなどの基礎的な統計手法に概念的に類似している。
本ワークショップでは、(1)SPMの歴史、(2)SPMでのt検定の実施方法、(3)SPMの妥当性の根拠、(4)SPMの限界及び将来展望について、SPM文献から重要なトピックを確認する。
トピック毎に10分～15分の発表とパネルディスカッションのセット形式で開催する。
パネルディスカッションでは、講師による個人的な経験、意見と視点を自由に議論する。

令和4年度 第2回理事会 議事録

日時：令和5年3月26日（日） 11：00～12：00

会場：国士舘大学世田谷キャンパス メイプルセンチュリーホール5階会議室

出席者：阿江、及川、太田、柏木、菊、工藤、近藤、佐々木、沢井、田中、船渡、細越
（順不同、敬称略）出席者12名、欠席者16名（委任状提出13名）

幹事：平野、赤澤

議題

I. 報告事項

1. 令和5・6年度東京体育学会理事の選挙結果について
平野選挙管理委員より、【報 - 資料1】に基づき以下のように報告がされた。
 - 投票率が、前回の10%程度から18~19%に上昇した。
 - オンライン化により選挙事務作業負担が軽減された。
 - 24名の新理事が選出された。
2. 新入会員、退会・転出者について
平野幹事より、【報 - 資料2】資料に基づき報告された。
3. 東京体育学研究第14巻について
平野幹事より、3月30日発刊予定、4月下旬発送予定であること、研究論文1編、研究報告2編、学会抄録18編、全50ページ程度であることが報告された。
4. 第14回東京体育学会について
田中理事長より、【報 - 資料3】に基づき報告された。一般研究発表の非会員共同研究者の理由書の提出は不要との意見もあり、今後の審議事項として検討していくこととなった。
5. 令和4年度中間事業報告について
田中理事長より、【報 - 資料4】に基づき報告された。
6. 令和4年度中間会計報告について
平野幹事より【報 - 資料5】に基づき報告された。
7. その他
 - 日本スポーツ体育健康科学学術連合のシンポジウム開催について
田中理事長より、以下のような説明がなされた。
 - 日本スポーツ体育健康科学学術連合（JAASPEHS）からの「大規模学会

シンポジウム・講演会」の開催についてのアンケートに回答。

- ▶ JAASPEHS からの依頼で、「子どもの健全な発達と体育・スポーツの役割」の企画会議に田中理事長が学会代表として出席。
 - ▶ 資料末頁のポスターの通り、本学会も主催団体の1つとなり、シンポジウムが開催されることとなった。
- 統計関係のWS共同開催について
- 田中理事長より、以下のような説明がなされた。
- ▶ 来年度、日本（福岡）で国際バイオメカニクス学会が開催され、統計処理やデータ解析に関する著名な研究者が来日される予定。
 - ▶ これに伴い、東京でも統計に関するレクチャーの共同開催を打診されている。
 - ▶ 次年度の研究会とあわせて開催できたらと考えている。
 - ▶ 新体制の研究担当理事とも相談の上、開催する方向で検討していく。

II. 審議事項

1. 令和3年度事業報告について

前回理事会にて承認済みのため割愛（削除）

2. 令和3年度会計報告について

前回理事会にて承認済みのため割愛（削除）

3. 令和5年度事業計画案について

田中理事長より、【審 - 資料3】に基づき説明がなされ、承認された。

4. 令和5年度予算案について pp.14

平野幹事より【審 - 資料4】に基づき以下のような説明がなされ、承認された。

- ▶ 収入の会費は昨年度の会費収入が1208名分であったため、1200名で計算している。
- ▶ 研究会の通信費にオンライン会議契約代×2回分を加えた（今後もハイブリッド型を行う可能性があるため）。
- ▶ 会員数減少により発行部数を減らしているため、学会誌刊行費予算を削減
- ▶ その他管理費支出の通信運搬費において、編集ソフト代（adobe）、データ管理をハードディスクからクラウドに移行するためクラウド代を追加計上。
- ▶ 令和5年度は選挙がないため、予算を削減。
- ▶ 令和4年度繰越金（予定）は中間会計の残金から令和4年度における学会大会費および学会誌刊行費の予算額を引いた金額を記入。

基金の支出についても予算立てが必要との意見があり、基金の予算案も作成することとなった。

5. 令和5年度若手研究助成について

田中理事長より【審 - 資料5】に基づき説明がなされた。

大学により間接経費が異なること、手続きが煩雑なこともあり、間接経費を含めて20万円としてはどうかと提案された。

これに対し、以下のような意見が出された。

- ▶ 間接経費を学会で定める
- ▶ 間接経費を取らないよう指示している助成団体もある
- ▶ 間接経費によって予算立てが難しくなるので間接経費分も考慮して助成件数を減らす
- ▶ 間接経費分を含めてしまうと、実際に使える金額が変わってしまうので不公平となる

以上の意見、議論を踏まえ、間接経費は別途支払うこと（今年度と同様）とし、予算の上限を80万円として、1件20万円、3件募集することとなった。

6. 東京体育学研究のオンラインジャーナル化について

田中理事長より、これまで取引のあった加藤印刷が廃業されたため、リョーワ印刷に依頼したこと、費用はこれまでと同じでやってもらえるという説明がなされ、今年度はリョーワ印刷に依頼することが承認された。

また、次年度以降のオンラインジャーナル化について以下のような意見が出された。

- ▶ 他学会の会員アンケートでは9割以上はオンライン化に賛成という事例がある。
- ▶ 完全オンライン化するのか、並行して紙媒体の発行をするのかどうか。
- ▶ 他学会では、オンライン化しつつ50部ほどの紙媒体も発行している事例がある。
- ▶ 完全オンラインの場合は、どこで閲覧できる（保管される）のか。→現状は事務局が管理し、HP上で公開している。

以上の意見、議論を踏まえ、今後メールで会員にアンケートを実施し、次年度に向けて検討を進めることとなった。

7. 令和4年度総会次第について

田中理事長より【審 - 資料6】に基づき説明され、承認された。

(文責：幹事 赤澤祐美、平野智也)

令和4年度 総会議事録

日時：令和5年3月26日（日） 17：00～17：30

場所：国土舘大学世田谷キャンパス メイプルセンチュリーホール 大教室

1. 会長挨拶

船渡会長より挨拶があった。

2. 議長選出

東京体育学会規則第5章第26条に基づき、総会出席者の中から和田匡史会員が選出された。

3. 議題

報告事項

(i) 令和5・6年度東京体育学会理事の選挙結果について

田中理事長より、【報-資料1】に基づいて報告された。

(ii) 令和4年度事業中間報告について

田中理事長より、【報-資料2】に基づいて報告された。

(iii) 令和4年度中間会計決算について

平野幹事より、【報-資料3】に基づいて報告された。

(iv) 若手研究助成について

田中理事長より、【報-資料4】に基づいて報告され、また次年度の募集について説明がなされた。

(V) その他

田中理事長より、本学会も主催団体の1つとなっている「子どもの健全な発達と体育・スポーツの役割」というシンポジウムについて、その経緯とあわせて案内があった。

審議事項

(i) 令和3年度事業報告について

田中理事長より、【審-資料1】に基づいて説明がなされ、承認された。

(ii) 令和3年度会計報告について

平野幹事より、【審-資料2】に基づいて説明がなされた。また太田監事より、適正に処理されていることが報告され、承認された。

(iii) 令和5年度事業計画案について

田中理事長より、【審-資料3】に基づいて説明がなされ、承認された。

(iv) 令和5年度予算案について

平野幹事より、【審-資料4】に基づいて説明がなされ、承認された。

4. 理事長挨拶

田中理事長より挨拶があった。

(文責：幹事 平野智也、赤澤祐美)

令和5年度事業計画案

1. 東京体育学会第15回大会の開催

日時：令和6年3月

開催場所：未定

2. 研究会の開催（年2回）

- 令和5年度第1回研究会（第102回）

令和5年7月中旬：開催場所、形式は未定

- 令和5年度第2回研究会（第103回）

令和5年11月中旬：開催場所、形式は未定

3. 研究誌「東京体育学研究第15巻」の刊行

4. 会報「とうきょう」の発行

「とうきょう」（2023.No.1） 令和5年7月発行 [Web上に掲載]

「とうきょう」（2023.No.2） 令和5年11月発行 [Web上に掲載]

「とうきょう」（2023.No.3） 令和6年3月発行 [Web上に掲載]

5. 若手研究助成事業

6. 諸会議の開催

総会（1回） 令和6年3月

理事会（3回） 令和5年7月中旬、令和5年11月中旬、令和6年3月上旬

令和5年度予算案

I 事業活動収入

(単位:円)

大科目	中科目	小科目	予算額	前年度予算	差額
会費収入			1,800,000	1,950,000	▲ 150,000
入会金収入			5,000	10,000	▲ 5,000
事業収入			0	0	0
寄付金・補助金収入			320,000	330,000	▲ 10,000
収入合計			2,125,000	2,290,000	▲ 165,000

内訳/注記

1,200名×@1,500
10名×@500

II 事業活動支出

大科目	中科目	小科目	予算額	前年度予算	差額
事業費支出	学会大会費支出	臨時雇賃金支出	100,000	100,000	0
		会議費支出	200,000	200,000	0
		旅費交通費支出	20,000	20,000	0
		通信運搬費支出	20,000	20,000	0
		消耗品費支出	10,000	10,000	0
		諸謝金支出	90,000	90,000	0
		学会賞金支出	60,000	60,000	0
	(小計)		500,000	500,000	0
	研究会費支出	臨時雇賃金支出	20,000	20,000	0
		会議費支出	10,000	10,000	0
		旅費交通費支出	20,000	20,000	0
		通信運搬費支出	60,000	20,000	△ 40,000
		消耗品費支出	10,000	10,000	0
		諸謝金支出	80,000	80,000	0
	(小計)		200,000	160,000	40,000
学会誌刊行費支出	通信運搬費支出	100,000	150,000	▲ 50,000	
	消耗品費支出	115,000	150,000	▲ 35,000	
	印刷製本費支出	400,000	450,000	▲ 50,000	
(小計)		615,000	750,000	▲ 135,000	
学術連合会費支出	学術連合会費支出	30,000	30,000	0	
(小計)		30,000	30,000	0	
管理費支出	常設委員会費支出	会議費支出	80,000	80,000	0
		旅費交通費支出	50,000	50,000	0
		通信運搬費支出	10,000	10,000	0
	(小計)		140,000	140,000	0
	その他管理費支出	事務アルバイト代支出	360,000	360,000	0
		幹事手当支出	120,000	120,000	0
		旅費交通費支出	20,000	20,000	0
		通信運搬費支出	40,000	10,000	△ 30,000
		消耗品費支出	30,000	30,000	0
		選挙管理費支出	0	100,000	▲ 100,000
委託費支出		60,000	60,000	0	
予備費	10,000	10,000	0		
(小計)		640,000	710,000	▲ 70,000	
支出合計		2,125,000	2,290,000	▲ 165,000	

研究会年2回

zoom代×2回

編集ソフト(adobe)
Dropbox

HP代

△前年度に対する予算増、▲前年度に対する予算減

収入合計	2,125,000
支出合計	2,125,000
収入合計－支出合計	0

令和3年度繰越金	1,099,067
令和4年度繰越金(予定)	899,397

会報「とうきょう」2023年度 第1号

発行日：2023年8月18日 編集：広報委員会

発行人：東京体育学会 会長 船渡和男

〒206-8515 東京都多摩市永山7-3-1

国立館大学大学院スポーツ・システム研究科 助手室 東京体育学会事務局

e-mail:tokyotai@kokushikan.ac.jp